

2025 年 8 月 8 日
公益財団法人 日本英語検定協会

英検協会『統合報告書 2025』（pp.35-36）

【コラム第 6 弾】

「データで見る英検® ～小・中・高校生の英語力向上の状況～」

中学生

— 本報告書の主なトピックを毎週金曜日に順次ご紹介いたします —

先般、7 月 1 日に英検協会として初めて「統合報告書 2025」を公開いたしました※¹。
以降、毎週金曜日に本報告書の主なトピックをコラム形式でご紹介しております。今回は第 6 弾として、
報告書 pp.33-34 に掲載した「データで見る英検 ～小・中・高校生の英語力向上の状況～ 中学生」
についてご紹介いたします。これを機会に、過去コラム第 1 弾から第 5 弾もぜひご覧ください。

[【コラム第 1 弾】統合報告書 2025 | 他グローバル試験に引けを取らない英検（受験者数・検定料）](#)（2025 年 7 月 4 日付）

[【コラム第 2 弾】統合報告書 2025 | 2024 年度の取り組み（問題制作・採点業務改革）](#)（2025 年 7 月 11 日付）

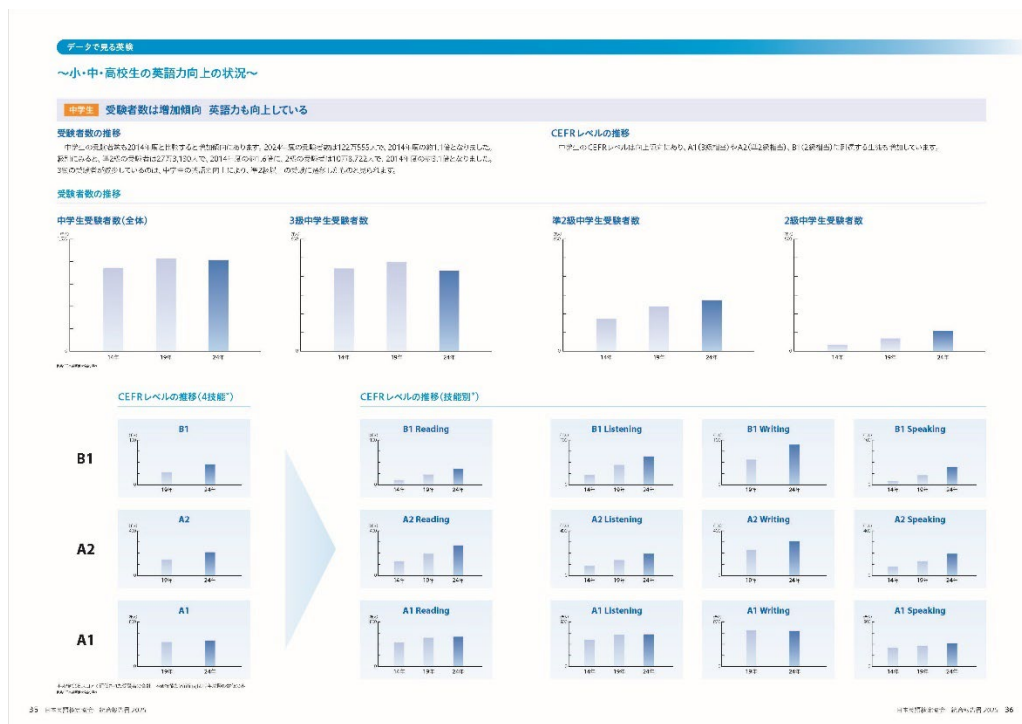
[【コラム第 3 弾】統合報告書 2025 | 2024 年度の取り組み（デジタルサービス推進）](#)（2025 年 7 月 18 日付）

[【コラム第 4 弾】統合報告書 2025 | 2024 年度の取り組み（英検 S-CBT 海外展開）](#)（2025 年 7 月 25 日付）

[【コラム第 5 弾】統合報告書 2025 | データで見る英検（高校生の英語力向上の状況）](#)（2025 年 8 月 1 日付）

※¹ 英検協会初、10 年の成果と DX 戦略をまとめた『統合報告書 2025』公開（2025 年 7 月 1 日付）

なお、来週もまた新たなトピックをご紹介します。



(コラム)

【中学生編】A1 目標を超えて：B1 到達が視野に入る中学生の英語レベルの現在地

コラムのまとめ

- ・過去 10 年で準 2 級は約 1.6 倍、2 級は約 3.1 倍に増加し、受験級の中心が高校レベルへシフト
- ・文部科学省が掲げる「卒業時 CEFR A1 以上 60%」に呼応し、中学生全体の英語力が底上げ
- ・CEFR^{※2} A2・B1 到達者が着実に増え、4 技能が均等に伸長。英語教育改革の成果のあらわれ

過去 10 年間で注目すべきは、中学生の受験級が高校レベルへとシフトしている点です。中学卒業レベルに相当する 3 級の受験者は微減する一方で、準 2 級は 10 年前の約 1.6 倍（2024 年度：27 万 3,130 人）、さらに上位の 2 級は、約 3.1 倍（同 10 万 8,722 人）へと大幅に増加しています。

文部科学省の『第 4 期教育振興基本計画』（令和 5～9 年度）は、中学卒業時に CEFR A1（3 級相当）以上に達成する生徒を 60%以上にする目標を掲げています。今回のデータは、その目標が教育現場に浸透し、中学生の英語力が底上げされていることを示しています。

CEFR レベル別に見ると、A2（準 2 級相当）や B1（2 級相当）に到達する生徒が着実に増加。リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの 4 技能すべてで、レベルが向上し、特定技能に偏らないバランスの取れた能力向上が確認されています。

こうした中学校段階での伸長は、前回コラムで取り上げた高校生の準 1 級・2 級受験者の急増とも呼応しており、小・中・高を通じた英語教育改革の効果が、成果として着実に反映されつつあると言えます。

※2 CEFR：言語能力を 6 段階で評価する国際的な指標

A1 = 英検 3 級相当

A2 = 英検準 2 級相当

B1 = 英検 2 級相当

B2 = 英検準 1 級相当

※「英検」およびそのロゴは、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標または商標です。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 日本英語検定協会 広報担当 (kouhou21@eiken.or.jp)